

分野名		生体機能形態医学分野								
科目名		機能再建外科学								
英文科目名		Plastic and Reconstructive Surgery								
担当教員	研究指導教員	島田賢一教授								
	科目担当教員	宮永亨講師								
代表的な研究課題		創傷治癒と皮膚再生医療								
		組織移植								
		外傷治療学（熱傷，手外傷，顔面外傷）								
学修目標	一般目標	基本的履修事項である創傷治癒学と組織移植学の知見を理解し、これらの知見を機能再建外科領域における様々な臨床医学に応用する能力を身につける。								
	行動目標 (DPとの関連)	創傷治癒学、組織移植学の最新の論文を読み理解できる。						(DP1・2)		
		創傷治癒学、組織移植学の研究に用いられる実験手法を理解し、修得できる。						(DP2・3)		
		機能再建外科領域に用いられる臨床的手法の目的を理解し、その技法を修得できる。						(DP3・4)		
学位授与方針 (DP)	DP1：医学・生命科学全般にわたる幅広い学識と生涯にわたり自立して研究活動を継続する能力を有している。									
	DP2：高い倫理観と高度の専門知識を有し、最先端の医学研究を企画・立案して遂行する能力を有している。									
	DP3：独創的な学術論文を論理的、かつ明確に記述して公表し、国内外の学会において発表し討議する能力を有している。									
	DP4：科学的技能を活かして、地域医療から国際保健・医療まで医療全般の進歩に貢献し、次世代の研究者育成にも貢献する能力を有している。									
教科書		標準形成外科学 第6版 鈴木茂彦他著 2011 医学書院								
準備学習	内容	事前配布する資料に目を通し、問題点を抽出しておくこと。								
	時間	30分/1回の授業あたり								
課題に対するフィードバック		レポート等の課題を提出させた場合は、内容のチェック・添削を行い、本人へフィードバックして理解度のアップをめざす。								
評価方法等	評価方法	口頭試問、提出レポート、などから総合的に判断する。								
		評価配分：口頭試問 50%、レポート 50%								
	成績評価基準	教育要項22頁[成績評価・単位認定方法等]参照のこと								
科目番号		講義	5011201	演習	5011202	実験実習	5011203	特別研究	50501014	
単位		4		4		4		6 (2-4年次で)		
		30コマ	60H	60コマ	120H	60コマ	120H	30コマ	60H	
開講時期		通年		通年		通年		通年		
配当年次	主科目とする場合	1または2年次		1または2年次		1または2年次		2-4年次		
	副科目とする場合	1、2、3年次		-		-		-		
選択/必修の別	主科目とする場合	必修		必修		必修		必修		
	副科目とする場合	選択		-		-		-		
時間割	区分		講義		演習		実験実習		特別研究	
	昼間	前期15週	水曜 5限		月・金曜 5限		火・木曜 5限		水曜 4限	
		後期15週								
	夜間	前期15週	水曜 6限		月・金曜 6限		火・木曜 6限		木曜 7限	
後期15週										
備考		授業時間の詳細は、21頁 [医学研究科における授業時間] を参照のこと。								
		上記の時間に参加できない場合は、担当教員と協議の上、具体的な時間割を決定する。								
授業場所		臨床研究棟8階 形成外科学医局		臨床研究棟8階 形成外科学医局		臨床研究棟8階 形成外科学研究室		臨床研究棟8階 形成外科学 他		

担当教員	講義	演習	実験実習	特別研究
	島田賢一教授	島田賢一教授 宮永亨講師	島田賢一教授 宮永亨講師	島田賢一教授
授業内容	機能再建外科学の基本的履修事項である創傷治癒学、組織移植学について講義を行う。創傷治癒学では、創傷治癒におけるサイトカインの動態、新生血管構築過程と瘢痕の形成過程との関連を、組織移植学では移植組織の微小循環動態、代用組織移植や組織工学の手法について主に講義を行う。さらに、これらの基本事項を基盤とした様々な再建外科学の概念とその応用手法について講義を行う。講義対象となる再建外科学としては、顔面外傷、熱傷などの外傷治療再建学、組織移植に必須である微小血管・末梢神経外科学、口唇・口蓋裂治療学、頭蓋顎顔面外科学、手・足外科学、レーザー治療学などがある。	機能再建外科学の研究に必要な実験および臨床研究の手法を深く理解するための演習を行う。基本的な研究手法に加えて専門的な研究・分析に必要な手法を指導するとともに、再建外科学における基本的な外科手技についても指導する。さらに、得られた成績に対する考察と評価、学術論文に対する理解と解析を行える能力を習得させる。また、関連領域の理解を深め幅広い知識を習得させるために、研究セミナーなどでの発表・討論をおして思考・問題解決能力を高めるよう指導する。	機能再建外科学に必要な基本的実習と実際の研究へ適用するための実験実習を行う。創傷治癒過程におけるサイトカインの機能・形態的变化、新生血管形態や様々な移植手法を用いた組織再建学やその組織の微小循環動態を検討する。実験手法としては光学・電子顕微鏡を用いた形態学的解析法、遺伝子工学を用いた生化学的解析法、光学による生理学的解析法、組織培養を用いた組織工学手法などを習得する。	創傷治癒、組織移植時における細胞機能・形態の解析
授業計画（インターネットに掲載）	講義	http://www2.kanazawa-med.ac.jp/~d-gakuin/office/implementationplan/5011201.pdf		
	演習	http://www2.kanazawa-med.ac.jp/~d-gakuin/office/implementationplan/5011202.pdf		
	実験実習	http://www2.kanazawa-med.ac.jp/~d-gakuin/office/implementationplan/5011203.pdf		
資格取得などのキャリアパス	日本形成外科学会専門医の取得を目指す。			
研究指導教員の実務経験	医師			
履修上の注意事項	①質問の受付は、随時行う。			
	②特別な配慮を必要とする場合は、事前に担当教員に相談すること。			
	③主科目として履修する場合は、1年次に共通科目実験動物学を履修すること。			
	④履修科目届にて履修希望を届け出し、履修年度の2月に、授業科目履修報告書にて、成績を報告することにより、修了要件の単位として認定される。			
	⑤履修報告の際には、履修した科目ごとに「授業改善のためのアンケート」を添付すること。			
オフィスアワー	島田賢一教授（臨床研究棟8階 形成外科学教授室） 金曜日 16:00~17:00（事前にメールでの照会必須） e-mail prs[at]kanazawa-med.ac.jp [at]→@			